

X線フィルム用スキャナの利用

2007.02.07

病院の遠隔医療センターを片付けた時に不要になった数多くのDICOM機器の山の中から、X線フィルムスキャナを頂いてきました。以下におおまかな使用方法を記載します。フラットベッドのスキャナで苦勞していた大きなフィルムも簡単にスキャン出来ますので、活用して頂きたいと思います。

1. 電源

最近ではUSBが流行ですが、これはSCSIです。「必ず」スキャナの電源を入れてから、パソコンの電源を入れて下さい。また、作業中に何かトラブルが生じた場合、再起動ではなくシャットダウンして、スキャナの電源を入れなおした方が復旧の可能性が高いです。

2. 使用するアプリケーション

Photoshopでも入れてあると取り込んだ画像を直ちに加工出来て便利ですが、このパソコンで快適に使用出来る古いバージョンのPhotoshopのライセンスは既に入手不可能でした。とりあえず、Windows2000に最初っから入っていた「イメージング」を使うことにします。デスクトップにエイリアスを出してありますので起動して下さい。

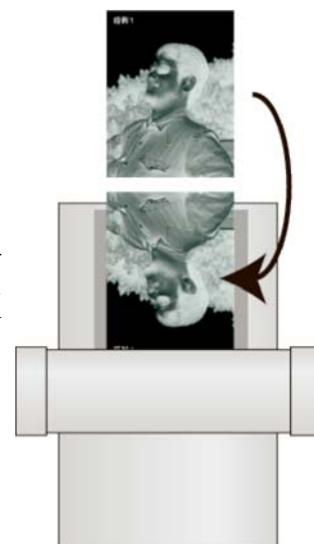


3. ドライバの起動

「ファイル(F)」メニューの「イメージの取得(Q)...」でスキャナのドライバが起動します。ウンともスンとも言わないときは、その下の「デバイスの選択」で[VXR-12]を選択しなおして下さい。それでもダメな場合はすべてをシャットダウンして、電源投入からやり直します。

4. フィルムの準備

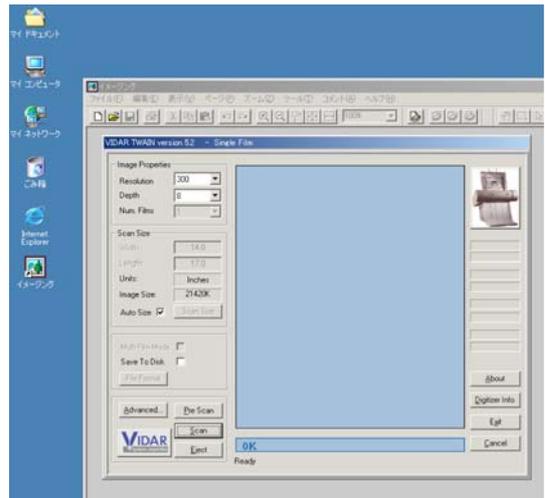
フィルムを正しい向きに入れないと、スキャンした後に余計な手間がかかります。取り込みたい向きに持って、上下が反対になるように裏返して下さい。また、フィルムは一枚だけセットして下さい。



5. ドライバの設定

図はドライバが起動した状態です。左上に解像度と階調の設定、左下にコマンドボタンがあります。解像度は60, 75, 150, 300dpiから選択して下さい。原寸で印刷用なら300、プレゼン用なら75程度で十分です。階調は8で使用して下さい。12を選択すると、イメージングでは閲覧出来ません。

「Advanced...」ボタンを使うと、トーンカーブの切り替えが可能です。中間調の描出は「SQRT」、明部の描出は「Power」、アイソトープやケミルミネッセンスの検出は「OD」がいいようです。必要に応じて切り替えて下さい。



6. プレスキャンとスキャン

フィルム全体を取り込むのでない限り、まず最初に取り込む範囲を決めなくてはなりません。「PreScan」ボタンでプレビュー画像を取り込み、マウスで範囲を指定して下さい。ドライバウインドウの右側のボックスに座標とサイズの情報が表示されます。この図では左上の画像を幅1248ピクセル、高さ1171ピクセルのサイズでスキャンしようとしています。プレゼンソフトに貼り込むには、少し大きすぎるかもしれません。もちろんここで解像度を変更することも可能です。「Scan」ボタンで本番の取り込みです。



7. 保存とデータの持ち出し

基本の保存形式はTIFFです。イメージングはどうやらFAX閲覧用ソフト出身らしく、マルチページTIFFを作るとかコメントを入れるなどのまるでDICOMのような機能がありますが、ここでは説明しません。

また、センターの他のWindowsマシンと同様、安全のためにネットワークには接続していません。データの持ち出しは、USBフラッシュメモリをご利用ください。

8. 最後に

スキャナの電源は「必ず」最後に切して下さい。